

安全・安心な
まち

消防団員として活動する小石原さんは、普段は都内の企業で働く一方、火災の発生時などには真っ先に現場へ駆けつけ消火活動などを行う朝霞市消防団第5分団に所属しています。

入団のきっかけは、中学時代の同級生に声をかけられたこと。入団後は、消防車のポンプ操作や救命処置を習得し、消防団連合点検や出初式への参加のほか、定期的な消防車での夜警により火災の予防に努めています。まったく知らなかった分野に足を踏み入れたことで視野が広がり、特に地域とのつながりを実感することが増えた小石原さんは、地域の方々や子どもたちに、消防団の活動を通して消防団の使命や魅力を伝えていきたいと考えています。

市の消防団員は、1月末現在で133人。去年は台風の警戒活動を行ったほか、14件の火災にのべ276人が出動しました。歳末特別警戒や火災予防運動などの啓発活動をはじめ、自主防災組織の地域防災訓練の指導者として参加するなど、地域防災力の向上にも寄与しています。

日頃から災害に備え、地域で助け合って乗り越えていけるまちであるよう、今後も市では消防団員の活動環境の整備や関係機関との連携強化に努めていきます。

問／危機管理室
463-1788



シリーズ“暮らしつづけたいまち”を目指して

第5次朝霞市総合計画の将来像「私が暮らしつづけたいまち 朝霞」。“暮らしつづけたいまち”と思えるまちを目指した4つの基本概念（コンセプト）の取り組みを毎月紹介しています！
問／政策企画課 463-3089



春の黒目川花まつり、夏の朝霞市民まつり「彩夏祭」、秋の朝霞アートマルシェ、冬の北朝霞どんぶり王選手権。市は、これら四季折々のイベントを、朝霞の魅力を広く市の内外へPRするシティ・セールスの一環として支援しています。

今年2月4日（土）に開催された第5回北朝霞どんぶり王選手権では、ふだんお店では食べられない味・アイデア自慢のどんぶりが販売され、来場者の投票により、「弁財角煮丼」がどんぶり王に決定しました！当日は、同時開催のあさか産業フェアとあわせて25,000人もの方が訪れ、会場は大いににぎわいました。

このようなイベントによるにぎわいによって、訪れた人が活気のあるまちだ、元気なまちだと感じ、市内の産業が活性化されることがさらなる市の魅力につながっていくと考えています。市は、これからも商工会や商店会などと連携しながら、魅力あるまちを目指してシティ・セールスに取り組んでいきます。

問／産業振興課
463-1903



つながりのある
元気なまち